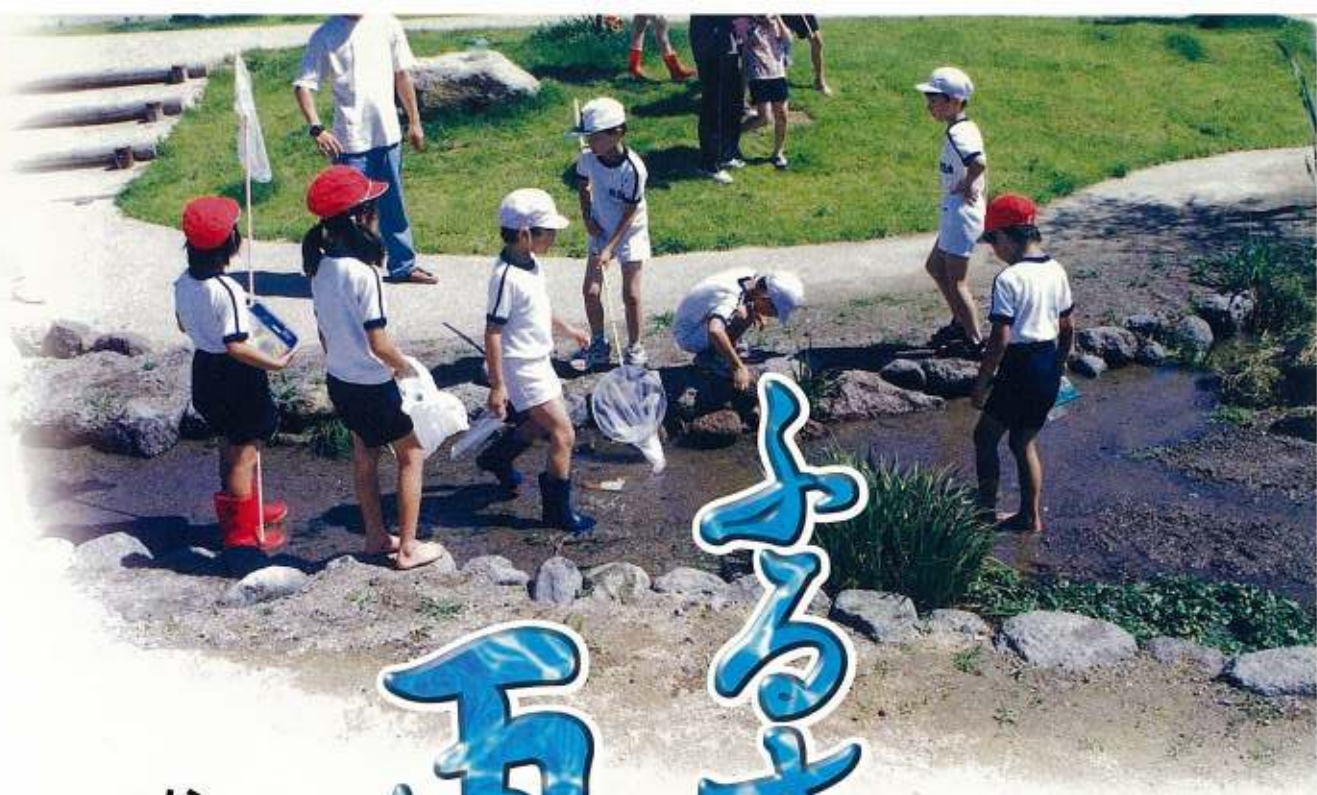


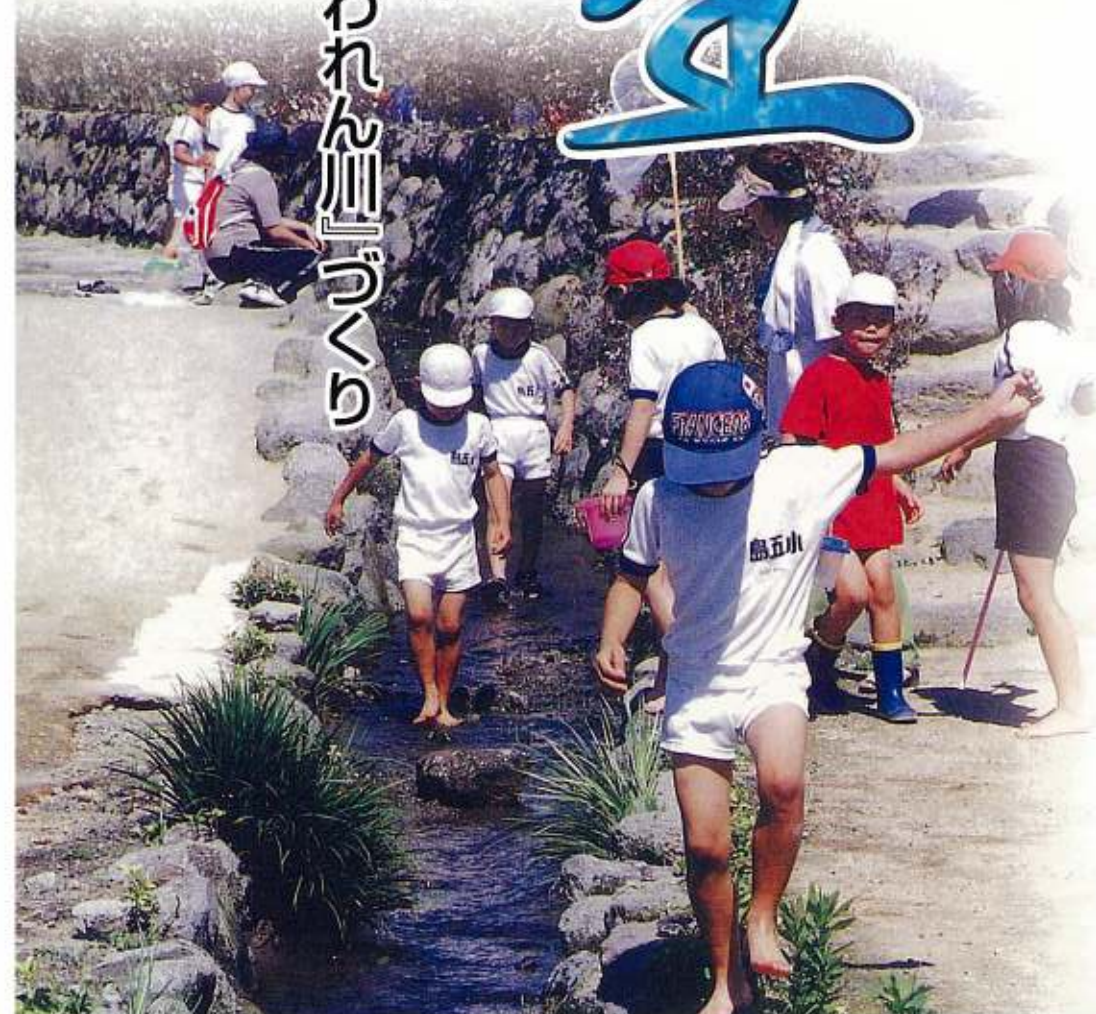


ふるさと

再生

住民参加による

ふるさとの『われん川』づくり



『われん川』の歴史

“われん川”は、水無川導流堤下流の湧水箇所から有明海に注ぐ河川です。噴火災害前は、湧水の流れる清流で、水辺は、地域住民の洗い場や憩いの場として利用され、生活にとけこんでいました。



噴火災害からの復興

“われん川”の流れる安中地区は、雲仙・普賢岳の噴火災害により壊滅的な被害を被りました。しかし、「ふるさとに戻り復興したい」と願う地域住民は、島原市、長崎県、国土交通省と一体となって、安全な土地を創出するため「安中三角地帯嵩上げ事業」（平成12年3月26日竣工）に取り組み、ふるさとの再生を進めています。

“われん川”の水源周辺は、土石流により被災した地域のなかで被災前の面影が残っている唯一の遺構であり、地域の貴重な財産です。



被災時の“われん川”周辺



“われん川”周辺の現況

住民参加によるふるさととの川づくり

“われん川”の川づくりは、水無川導流堤の完成を踏まえて、安中三角地帯やその周辺の人々の新しいふるさととしての川として計画から施工・維持管理にわたるまで、地域住民と行政が一体となって進めてきました。

川づくりの基本的な考え方



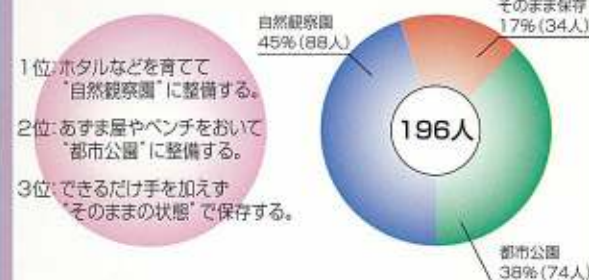
自然
生き物が住む
水辺環境の創造

ふるさと
ふるさとの遺構
の保存・再生

憩い・集い
人々の憩い、
集う空間づくり

住民によるアンケート調査

Q. “われん川”周辺の整備計画としては、どれが一番好きですか？



- 1位: ホタルなどを育てて“自然観察園”に整備する。
- 2位: あずま屋やベンチを置いて“都市公園”に整備する。
- 3位: できるだけ手を加えず“そのまますま”で保存する。

ワークショップの開催

“われん川”の整備を住民と一体となって進めるため、地域住民との意見交換の場として“われん川”ワークショップ（意見交換会）を地域住民、島原市・長崎県・国土交通省職員が参加して行いました。

ワークショップでは、“われん川”整備の基本的な考え方、工区毎のテーマの設定をはじめ、整備についての具体的な意見交換が活発に行われました。



ワークショップの状況

先進事例の見学

ワークショップでは、“われん川”整備の参考とするため、水辺の環境整備の先進地を見学しました。



長崎県・島原市
小浜地区の「アール・ド・フランス」を見学

住民参加による川づくり

“われん川”の整備にあたっては、地域住民や学生などにより、小川や池に土や石を敷き詰めたり、飛び石や中州をつくるなど自らの手で川づくりを行いました。

整備後も、地域住民などにより、魚の放流、草とり、ゴミ拾いが行われるなど、地域住民と行政が連携を図りながら“われん川”の維持管理を進めています。



H12.9.2

われん川の 歩き方



モニタリング活動 ～観察の場～

“われん川”には、泉（湧水）から河口までの多彩な自然環境があり、水域から陸地や淡水域から海水域における動植物の生育を観察することができる貴重な学習・研究フィールドです。

水域～陸域

“われん川”では、河原から湿地への環境の移り変わりによる動植物の生息状況の変化を観察することができます。河原では、セキショウやウキヤガラなどが、湿地ではガマ、オギなどの植物が生育しやすい動物にとっても貴重な生息環境となっています。川の石の下にはヤゴ、カワナナなどの水生生物が生息し、水生生物を観察することで川の水質を知ることができます。



“われん川”の水辺で育ちはじめたオランダガラシ

淡水域～海水域

泉（湧水）から海への環境の移り変わりによる動植物の生育状況の変化を観察することができます。

河口付近には、名前に「ハマ」の付くハマボウ、ハマエンドウ、ハマウドなどが生育しやすくなっています。また、海水と淡水が混ざり合う汽水域では、生物の生態系が豊かで魚類や鳥類など多くの生物を観察することができます。



“われん川”河口のハマダイコン

海との出会い

河口部では、汽水域特有のハマボウやハマエンドウなどの自然植生の回復が見られ、“われん川”が海と出会う環境での動植物を観察できます。



出会うの泉

この場所から湧き出る清水とふるさとの泉や安中三角地帯の泉からの清水が一つになる出会うの泉では、水辺遊びや水生動植物を観察することができます。



巨石の広場

雲仙・普賢岳の噴火災害の脅威を後世に伝える場や砂防学習の場として、山麓から海付近まで土石流により押し流された巨石を置いています。



海との出会い

散策の水辺



水辺の散策

新たに整備された“われん川”の水辺では、植生などが自然に回復してくる状況や水辺特有の動植物を観察できます。



ふるさとの泉



ふるさとの森

土石流により被災し、安中三角地帯の嵩上げより埋没する樹木を「災害に耐えた木の生命力に負けないようふるさとを再生したい」と願う地域住民の復興のシンボルとして移植しました。



われん川再生由来の碑

地元住民の手により再生由来の碑が建立されています。碑文には、「われん川」の由来や土石流災害からの再生に向けた官民一体となった取り組みが紹介されています。



湧水

島原市は、「水の都」と言われ、湧水が豊富な地域です。湧水は、町なかをぬって流れ、地域生活に密着しています。「われん川」も、2000年前の噴火に伴う地殻変動により生じた湧水を水源とし、被災前は洗い場や憩いの場として安中地区の人々に親しまれていました。



石垣・石畳

安中地区は、土石流の氾濫により多くの家屋が流失し、壊滅的な被害を被りました。泉のその周辺にある石垣・石畳は、被災前の面影が残っている唯一の遺構として保存されています。



コミュニティー広場

広場は、綱引き大会、親子キャンプ、遠足などに利用されており、地域のコミュニケーションが図られています。



われん川の整備テーマ

「われん川」は、ふるさとの遺構である泉（湧水）、石垣、石畳を保存し、人々が憩い集える自然な水辺づくりを目指して整備しました。

災害前や現在の水辺環境や地域住民の意見をもとに、泉から海までを3つの区間に分け、各々の整備テーマを設けました。

基本イメージ	整備テーマ	整備の視点
憩い、集い等の利用 生態系等自然環境の保全	ふるさとの泉	○泉、石垣、石畳を被災前のふるさとを語る貴重な資源（遺構）として保存再生する。 ○人々が憩い、憩うことのできる空間を整備する。 ○「ふるさとの森」と一体的に整備する。
	散策の水辺	○泉と海を有機的に結ぶ区間としての特性を踏まえた自然環境をつくる。 ○流れの中の動植物を観察できる空間を整備する。 ○安中三角地帯の泉と合流させる。
	海との出会い	○海水と淡水が混り合う、汽水域の特性を踏まえた自然環境をつくる。 ○干潟などの自然や動植物を観察できる空間を整備する。 ○復興アリーナや雲仙岳災害記念館からのアクセスなどを考慮する。

水無川導流堤

土石流の威力を弱めながら導流堤の中心を安定して流れるようハの字型で不連続に配置し、川幅は土石流の流下を阻害しないよう、氾濫実績などにより90m以上確保しています。



水無川グリーンライン

水無川グリーンラインとは、導流堤などに計画的に植樹することにより、形成される連続する緑の帯のことです。被災前の景観や自然を復元し、地域にとって快適で魅力的な場をつくります。導流堤では、土石流が流れる時に、妨げとならない範囲を盛土し、地域住民などと連携して植樹活動を行っています。



噴火10年復興記念の植樹祭(H12.11.18)

われん川を利用される皆様へ

雨の日は、土石流の発生する恐れがあります。利用しないようにしましょう。

遊砂地など、立入禁止エリアには入らないようにしましょう。

弁当箱や空き缶などのゴミは持ち帰りましょう。

導流堤内でイベントなどを行う場合は、事前に届け出ましょう。

動植物を観察する場合は、傷つけないよう注意しましょう。

他人に迷惑のかかるような行為はやめましょう。

われん川は、地域の宝です。大切に利用しましょう。

お問い合わせ先

安中地区まちづくり推進協議会

〒855-0878 長崎県島原市上の原1丁目6222-6
TEL・FAX:0957-62-7022

島原市 建設課

〒855-8555 長崎県島原市上の町537番地
TEL:0957-63-1111 FAX:0957-62-9101
ホームページアドレス:<http://www.city.shimabara.nagasaki.jp>
e-mailアドレス:kensetsu@city.shimabara.nagasaki.jp

長崎県島原振興局 建設管理課

〒855-8501 島原市城内1丁目1205
TEL:0957-63-0111 FAX:0957-63-2796

国土交通省九州地方整備局雲仙復興工事事務所 調査課

〒855-0866 長崎県島原市南下川尻町7番地4
TEL:0957-64-4171 FAX:0957-63-0914
ホームページアドレス:<http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/>
e-mailアドレス:unzen@qsr.mlit.go.jp